

事業所における自己評価結果(公表)

別紙3

公表:令和 6年 3月 1日

事業所名:バンビの家

事業所名:バンビの家

職員数:7名

回収数:7名

割合:100%

チェック項目		はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容 又は改善目標
環境・体制整備	① 利用者定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	7	0		運動療育を行う際には、安全に、かつ必要な動きが阻害されないように内容等を工夫していく。
	② 職員の配置数は適切である	7	0		
	③ 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	7	0		今後も、わかりやすく過ごしやすい環境になるように工夫を行っていく。
	④ 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	7	0		
業務改善	⑤ 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	7	0		
	⑥ 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	7	0		ご意見を参考に改善に努めていく。アンケート結果はホームページ内に記載を行い、保護者への情報提供も行っていく。
	⑦ 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	7	0		ご意見を参考に改善に努めていく。アンケート結果はホームページ内に記載を行い、保護者への情報提供も行っていく。
	⑧ 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	0	7		
	⑨ 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	7	0	・全員1回以上は参加しているが、十分ではないと感じている・心理研修、虐待防止研修に参加している	今後も研修や勉強会などでスタッフのスキルアップに努める。また、必要と思われる研修の情報収集も行っていく。
適切な支援の提供	⑩ アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか	7	0		
	⑪ 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	7	0		
	⑫ 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	7	0		個々のニーズを反映させるとともに、個別支援計画に沿った療育内容であることを分かりやすくお伝えしていく。

適切な支援の提供	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	7	0		個別支援計画に沿った内容であることを分かりやすくお伝えしていく。
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	6	1	・立案は個人でしていることが多いが、共有はしている・主にはリーダーが立案し、お子さんの状態を各担当スタッフに確認をして、内容の工夫・配慮点を考える等をおこなっている・子どもの様子を踏まえ、毎回確認・相談しながらプログラムをつくっている	ミーティングを有効に活用し、お子さんの情報を共有しながら、よりニーズに合わせた活動を立案していく。
	⑮	活動プログラムを固定しないように工夫している	7	0	・子どものニーズに合わせて、新しい物を加えつつ、プログラムを作成している	情勢や流行などの情報収集を行い、楽しめる内容を考案していく。
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	7	0		
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	7	0	・予想される子どもの動き等を踏まえ、臨機応変に対応できるように話し合っている	
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	7	0	・予想される子どもの動き等を踏まえ、臨機応変に対応できるように話し合っている	
	⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	7	0	・毎回行い、情報共有している	
	⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	7	0	・記録を取り、次に活かせるようにしている・情報共有になっている	
関係機関や保護者との連携	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	7	0		
	㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	4	2	今年度、具体的なやりとりはなかった。	必要に応じて連携を行っていく。連携が必要な際には、スタッフ間での情報共有を密に行っていく。
	㉓	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行っている				医療的ケア時の利用なし
	㉔	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている				医療的ケア時の利用なし
	㉕	移行支援として保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	7	0	保護者(園)のご要望があれば、園に訪問して情報共有を行っている。	更に母園との連携を深めていきたい。
	㉖	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	7	0	主に保護者を通じて行っている。保護者の要望があれば行うことになっている。サポートブックの書き方や就学前準備についての保護者勉強会を予定している。保護者の要望があれば取り組みたい	卒業児の保護者の方との座談会や、ペアレントメンターさんの研修など、今後も就学後の情報を提供していけるように検討していく。
	㉗	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	7	0	・必要に応じて情報収集等を行っている	今後も連携を行い、情報収集やスキルアップに努めていく。

関連機関や保護者との連携	⑳	保育所や認定こども園、幼稚園等と交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	0	7	・母園があるので、母園で交流が出来ている。・母園での生活を主流としている為、バンビでは行っていない。	
	㉑	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	7	0		今後も情報収集含め、参加に努めていく。
	㉒	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達状況や課題について共通理解を持っている	6	1	・今年度は全員がCAREの研修を受講した。職員が家族の困りごとに助言を行っている・毎回、振り返り時に療育の様子と日常生活の様子の情報交換を行っている	より、お話ししやすい環境設定や適切な助言ができるようスキルアップに努めていく。
	㉓	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	4	3		CAREなどを取り入れた支援を行うとともに、ペアレントトレーニング等も計画的実施できるように検討していく。
保護者への説明責任等	㉔	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	7	0		分かりやすく丁寧な説明ができるように努めていく。
	㉕	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	7	0		分かりやすく丁寧な説明ができるように努めていく。
	㉖	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援支援を行っている	7	0	・日常生活での困りごと等を聞き取っている。スタッフで考察を行い、必要な助言ができるようにしている。	より、お話ししやすい環境設定や適切な助言ができるスキルアップに努めていく。
	㉗	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	6	1	保護者会は設けていない。4年ぶりに保護者交流会を開催したり、親子で集う機会を設けたが、十分ではなかったと感じている。	保護者同士の交流が行える機会を増やせるように検討していく。
	㉘	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	7	0	・療育時以外でも、相談を受けることを伝えている。	
	㉙	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	7	0		
	㉚	個人情報の取扱いに十分注意している	7	0		
	㉛	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	7	0		
	㉜	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	0	7	・招待できるような、大きな行事は行っていない	
	非常時等の対応	㉝	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症マニュアルを策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	7	0	
㉞		非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	6	1	・実施予定である	実施した際には情報提供を行っていく。

非常時等の対応	④③	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認している	6	1	・予防接種については把握ができていない。	詳細にお子さまの状態が把握できるようにしていく。
	④④	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	2	5	・食事提供を行っていない・食物アレルギーの有無を確認しているにとどまっているが、医師の指示書の有無も確認していきたい・食物を扱わない為、特別な対応は行っていない・アレルゲンになる物を活動で取り扱わないようにしている	お子さまの状態とともに、緊急時の対応についても保護者と情報共有を行っていく。
	④⑤	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	7	0	・法人内のヒヤリハット事例を職員間で共有している	
	④⑥	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	7	0		
	④⑦	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	3	4	・事前に十分説明が出来ているとはいえ、個別支援計画に記載はしていない。・計画への記載は行っていない。	緊急時の対応について保護者と情報共有を行うとともに、支援計画にも記載をしていく。

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。